

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

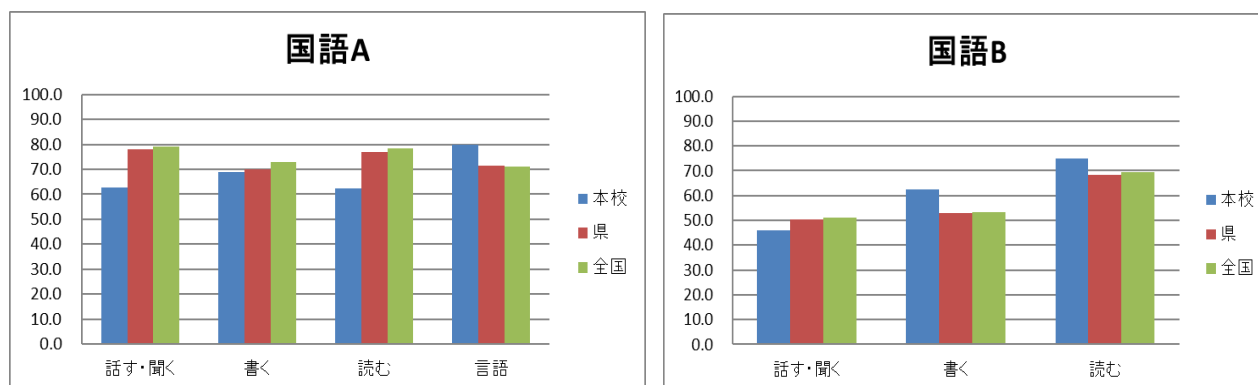
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題、ともに全領域の合計点では全国及び県平均を上回ったものの、領域ごとの結果では、かなりばらつきが見られた。活用を問うB問題では、全設問無回答0%で、どうにかして自分の考えを書き表そうという態度は身についている。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・A問題・B問題ともに県・全国を下回った。「どんな視点で話し合っているか」「どんな意図で質問しているか」を問う設問での正答率が低かった。少人数の利点を生かし、全員が自分の考えを説明したり、考えを交流したりしながら課題を解決していく授業を行い、「目的を明確にした話し合い」「相手の話の要旨を捉える話の聞き方」等、「話す・聞く」技能を系統的に指導するなど授業のレベルアップを図っていく必要がある。

書く

・B問題で全国・県平均を上回ったものの、B問題で下回る結果となった。「目的に応じて書く内容を整理する」設問での正答率が低かった。主題を明確にし、構想を組み立て、文章を構成するプロセスを大切にする授業を更に進めていく必要がある。思考ツール(目的に応じたチャート等工夫したワークシート)の有効な活用についても、今後更に研修をすすめていきたい。

読む

・B問題で全国・県平均を上回ったものの、A問題で下回る結果となった。「複数の叙述の中から、根拠となる表現として適切なものを選ぶ」設問の正答率が低かった。授業の中でも、理由や根拠を問われたとき、勝手に粗筋や要約した表現で答えるのではなく、きちんと「〇〇ページの～という表現からわかります」というように、文章の叙述を引用しながら、きちんと読み取る習慣を身に付けさせる必要がある。

言語事項

・全国・県平均を大きく上回ることができた。漢字やローマ字の読み書きはおおむねできていたが、個人差が見られた。本校はAB年度カリキュラムでの複式指導をしており、2年間をかけて、確実に漢字の習熟に努めていきたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 国語の授業を中心に、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった力を身につけます。また、獲得した国語力を他教科に活かす授業を仕組んでいきます。
- 特に、相手に考え伝えるための方法を理解させ、思考力、表現力の向上を図ります。
- 朝の読書、読み語り等、**読書の充実を図り**、主体的に読書に取り組む子どもを育てます。

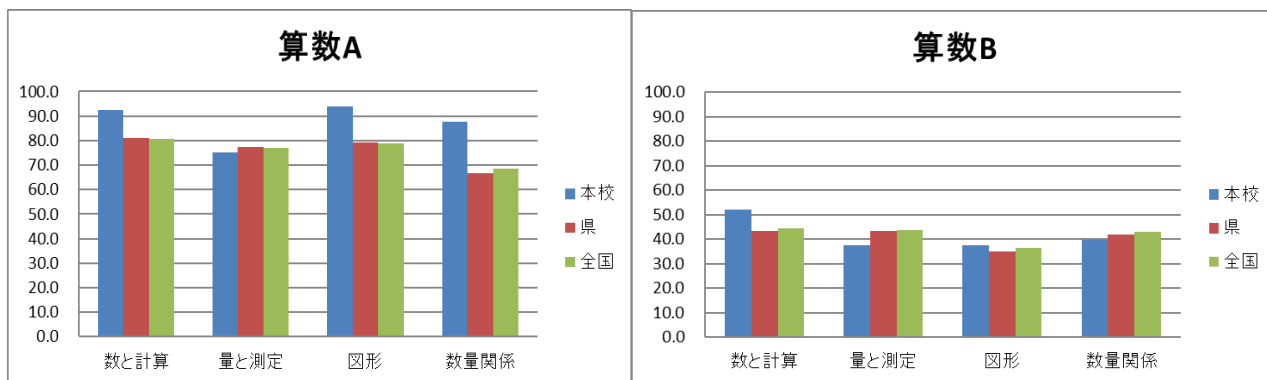
【ご家庭では次のことをお願いします】

- 読書ができる環境づくり**をお願いします。読み語り、交代で読むなど一緒に読書を楽しみましょう。
- お子さんと会話を増やすことが大切です**。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話し、共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流してください。
- 漢字、音読の学習で、**頑張っているところを見て、誉めてあげてください**。

2 算数

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題は、全国・県平均を大きく上回っている。活用力を問うB問題では、トータルでは全国・県平均を上回ったが、領域ごとの結果ではかなりばらつきが見られた。無回答は、A問題・B問題計29問中、B問題の2問以外は全員解答しており、どうにかして解こうと集中してテストに臨むことができていた。

(2) 成果と課題

数と計算

・全国・県平均を大きく上回った。日々の学習の積み重ねと、週に2度の放課後学習(友愛タイム)の効果が表われている。今後も、安定した計算力を持続できるよう指導を継続していく。

量と測定

・全国・県平均をやや下回った。「一人あたりの貸し出し冊数を求めるために必要な情報を選ぶ」設問の正答率が低く、「示された式の意味を説明する」設問は全員不正解であった。分かっているものの、正答の条件となる記述が正しく表現できていない。感覚的な理解に留まらず、根拠や考えの道筋をわかりやすく説明する力をつける必要がある。

図形

・全国・県平均を上回った。図形の定義、作図、測定等はきちんと理解できている。電子黒板を使った視覚的指導や、模型等を活用した操作活動を重視した指導の効果が表われていると思われる。

数量関係

・A問題では全国・県平均を大きく上回ったが、B問題では全国・県平均を下回った。「資料を読みとった事柄の例示が正しくない理由を説明する」設問の正答率が低かった。記述式問題の中でも、「自分の考えを書く問題」はできても、「例示されている事柄や他者の考えの根拠を説明する問題」の正答率が低く、普段の授業でも、みんなの考えを吟味する活動などを多く取り入れていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 火曜日・金曜日の放課後に「友愛タイム」(プリントでの補充学習)に取り組み、**基礎・基本の四則計算の定着、単元ごとの確実な習熟**をめざします。
- 授業では、「つかむ→見通す→考える→深める→まとめる」北山校授業モデルに全学級で取り組み、論理的思考力を高め、**自分の考えを筋道立てて説明できる力**をつけるよう努めます。
- 中学部教諭とのTT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、**補充指導**に努めます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- テスト結果だけでなく、お子さんが計算練習や算数の文章問題に取り組んで努力している過程にも目を向け、**励ましや称賛の言葉**をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。**学校で習った算数を使う生活場面を作ってあげてください。**「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」…身のまわりには算数を使える場面が意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100.0	91.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	100.0	80.1
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	100.0	90.8
平日2時間以上テレビを見る。	50.0	57.1
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	24.0	29.7
平日読書を30分以上している。	87.5	36.5
平日読書は全くしない～10分未満。	0	36.5

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは身についている。6年生は、登校班のリーダーとして、下学年の世話をしながら、毎日おおむね決まった時刻に登下校をしており、遅刻や不登校児童はいない。

テレビやゲームについては、全国平均より少ない結果で、長時間テレビやゲームをしている実態はない。読書については、学校での朝読書や休み時間の読書が身についており、図書館の本の貸し出し冊数も、年々増加している。読書カードの活用、児童相互によるおすすめ図書の紹介、図書館祭り等、読書をすすめる取り組みも文化委員会を中心に盛んに行っており、関心も高まってきている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	12.5	25.5
平日1～2時間勉強している。	12.5	37.0
平日0～1時間勉強している。	75.0	37.3
家で、学校の宿題をしている。	100.0	97.0
家で、授業の予習をしている。	50.0	43.3
家で、授業の復習をしている。	75.0	55.2

家庭学習については、宿題を怠ることなく続けている。間違い直しについては、その日のうちに取り組んでいる。家庭での学習の習慣は定着しているものの、6年生にしては家庭学習の時間が短いと思われる。中学部進学に向けて中学校教諭と連携して、質・量を高めていきたい。学習内容についても宿題中心で、予習をしている児童は50%にとどまっている。自学も、習熟を図るだけでなく、テーマを与えたり、未修のものに挑戦させたり、幅を持たせる工夫をしていきたい。モデルとなる自学ノートを掲示したり、学級通信等で保護者に紹介したり、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図っていきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 宿題として「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に毎日出します。自主学習（自学）についても、お手本になる**自学ノート**を掲示したり、工夫を凝らした自学ノートを書いた児童を称賛したりすることで、意欲を持って自主学習に取り組むようにしていきます。
- 「**家庭学習調査**」や「**学習に関するアンケート**」をもとに、**生活習慣や学習習慣についての個別指導**を続けていきます。
- 「**立腰**」に取り組み、集中して学習することを、今後も全学年で取り組んでいきます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 「**家庭学習の手引き**」を参考に、家庭学習の内容を確認され、**自学ノート**の確認をしていただき励ましていただくことで、より児童の自主的な学習態度が育まれていくと思われます。
- 年2回の「**家庭学習調査**」週間のときは、わが子の**学習の内容、読書量**を親子で確認していただくことで家庭学習への意識が更に高まると思います。
- 食事中、家庭学習中の姿勢等、家庭でも「立腰」**の取り組みへの協力をお願いします。